

**令和 7 年度 第 1 回生野区区政会議
こどもの未来部会**

- 1 開催日時
令和 7 年 6 月 6 日（金） 19 時 00 分～
- 2 開催場所
生野区役所 6 階 大会議室
- 3 出席者
(区政会議委員) 7 名
西村委員、加藤委員、永裕委員、村岡委員、北口（英）委員、足立委員、今井委員
(その他関係者) 1 名
上田生野区 PTA 協議会会長
(生野区役所) 10 名
筋原生野区長、大川副区長、宮城企画総務課長、竹中まちづくり推進担当課長、中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山東教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、嶋田教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、森岡保健福祉課長、藤原子育て・地域福祉担当課長、森区政推進担当課長、金田企画総務課長代理
- 4 委員に意見を求めた事項
 - (1) 令和 6 年度生野区の取組み振り返りについて
 - (2) 区政に関する意見交換会の開催について
 - (3) その他
 - ・資料 1 令和 6 年度生野区運営方針振り返り（全体会・各部会共通）
 - ・資料 2 「区民わがこと SDGs」の推進にかかる区ごとの SDGs ゴールの選定
 - ・資料 3 外国人住民との共生社会実現に向けた調査・施策検討結果（概要）
 - ・【参考資料 1】 当日スライド資料
 - ・【参考資料 2】 事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応
 - ・【参考資料 3】 主なご意見等と区の考え方、対応
(令和 6 年度 第 2 回生野区区政会議)
 - ・【参考資料 4】 令和 7 年 生野区区政会議 委員改選について

5 会議内容

○森区政推進担当課長

それでは皆さま、大変お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただ今から、令和7年度第1回生野区区政会議こどもの未来部会を開催させていただきます。

本日はご多用のところご出席いただきましてありがとうございます。

私は事務局の生野区役所企画総務課の森でございます。よろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

それでは最初に、本日ご出席の委員の皆さまをご紹介します。

委員名簿の順でお名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれた際には、お手数ですがご起立いただきますようお願いいたします。

西村委員でございます。

○西村委員

西村です。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

加藤委員でございます。

○加藤委員

加藤です。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

永杢委員でございます。

○永杢委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

村岡委員でございます。

○村岡委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

北口委員でございます。

○北口（英）委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

足立委員でございます。

○足立委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

今井委員でございます。

○今井委員

よろしくお願いします。

○森区政推進担当課長

なお、川本委員、福田委員、安委員につきましては本日所用によりご欠席されておられます。

また部会につきましては、分権型の教育行政を担う区役所が、保護者・区民の方の多様な意見・ニーズを汲み取るための会議としての役割も担っておりますことから、本日関係者としまして、区 PTA 協議会から上田会長にもご出席いただいております。

○上田生野区 PTA 協議会会長

よろしくお願いします。

○森区政推進担当課長

よろしくお願いします。

本日の会議は、委員定数 10 名に対しまして 7 名の方のご出席がありますので定数の 2 分の 1 以上の出席で有効に成立していることをご報告いたします。

そして本日の傍聴者は 1 名となっております。

それでは区役所の方ですが、4 月 1 日付の人事異動で課長級メンバーが変わっておりますので順にご紹介させていただきます。竹中課長でございます。

○竹中まちづくり推進担当課長

皆さまこんばんは。4 月から生野区役所まちづくり推進担当課長を拝命しました竹中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

嶋田課長です。

○嶋田教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長

こんばんは。教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長の嶋田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

森岡課長です。

○森岡保健福祉課長

こんばんは。4 月 1 日付で保健福祉課長を拝命しました森岡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

それから事務局の金田です。

○金田企画総務課長代理

企画総務課長代理を拝命しました金田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

ありがとうございます。

区政会議に関します本市の規則によりまして、本日出席いただいた委員の皆様のお名前・発言内容などは公開をされます。事務局におきまして、議事録を作成し、後日、区のホームページなどで公開させていただきますほか、会議の様子を収録しまして、後日 YouTube において配信し、どなたでもご覧いただけるような形にして参りますので録音や撮影につきまして、ご了承のほどよろしくお願いいたします。なお、会議録を作成いたします都合上、ご発言の際はマイクを使用いただきますようご協力お願いいたします。

さてこどもの未来部会では主に子育て・教育の分野につきまして、令和6年度の生野区の取組を振り返っていただき、今年度の取組に繋げていくため、委員の皆さまからご意見やご議論をいただきたいと考えております。

本日の会議でいただきましたご意見などは後日開催される全体会の場で報告をいたしまして、全ての委員の皆さまに共有していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして本日の資料についてご案内させていただきます。「令和7年度第1回生野区区政会議こどもの未来部会次第」をご覧ください。

まず資料1が、事前に送付をしております「令和6年度生野区運営方針振り返り」です。次に資料2「『区民わがこと SDGs』の推進におけるゴールの選定」についてです。資料3が、「外国人住民との共生社会実現に向けた調査・政策検討結果（概要）」という資料です。次に参考資料1としまして、後にスクリーンに投影しますスライドを印刷した資料です。参考資料2「事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応」という資料です。参考資料3、これは前回1月に開催しました全体会でいただきました主なご意見等と、区の考え方、対応です。参考資料4「令和7年生野区区政会議委員改選について」という資料です。あと次第には書いておりませんが、こどもの未来部会に関しますアンケート用紙を置かせていただいておりますので、お手数ですが、お帰りの際までにご記入をいただき、出口で回収させていただきたいと存じます。

それでは本日の流れを大まかに説明させていただきます。

議事1で資料1の生野区運営方針振り返り、事前にいただいたご質問と区の考え方及び本日のテーマによる意見交換を行っていただき、議事2では、区政に関する意見交換会の開催について、議事3 その他といたしまして、資料2「区民わがこと SDGs」のゴール選定と資料3 外国人住民との共生社会実現に向けた調査・施策検討事業の結果の概要報告をさせていただき、最後に、参考資料4 区政会議委員改選についてのご説明をさせていただきたいと思っております。

本日も様々なご意見のほどよろしくお願いいたします。

それではここからの議事進行につきましては、永裕部会長にお願いしたいと思いを。永裕部会長よろしくお願いいたします。

○永裕委員

改めまして皆さまこんばんは、部会長の永裕です。よろしくお願いいたします。

ただいまから令和7年度第1回こどもの未来部会を開催します。区政会議は地域でまちづくり活動を実際に進めている私達が行政とともに、生野区の課題解決のためどう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。よって、委員の皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って積極的なご発言をお願いできればと思います。

それでは、開催に当たりまして、大川副区長からご挨拶をお願いいたします。

○大川副区長

皆さんこんばんは。副区長の大川です。本日はお忙しい中、区政会議こどもの未来部会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本来であれば、区長の筋原がご挨拶を申し上げるところですが、別の公務で遅れての参加となりますので、恐縮ですが私の方からご挨拶申し上げたいと思います。

この区政会議は条例に基づいて設置しておりまして、生野区では三つの部会を設けております。本日皆さまがご参加いただいております「こどもの未来部会」には、子育て・教育をテーマとしており、次世代を担う子どもたちがこの生野区で健やかに育つための環境作りや、相談・支援体制の整備などの分野についてご議論、ご意見を頂戴する場となっております。

本日につきましては令和6年度の取組の振り返りについてご説明申し上げますが、忌憚のないご意見を頂戴しまして、今後の施策に繋げてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○永裕委員

それでは早速議事に入りたいと思いますが、限られた時間で円滑に意見交換を進めていただけるよう、ここからは学識委員の今井委員に会議の進行をお願いしたいと思います。それでは今井委員よろしくお願いいたします。

○今井委員

部会長からご指名いただきました今井です。よろしくお願いいたします。これから皆さまの意見交換のお手伝いをさせていただきますので、ぜひ活発な議論をよろしくお願いいたします。

それでは会議の次第に沿いまして、議事1「令和6年度生野区の取組み振り返りについて」、区役所から説明をお願いします。

○金田企画総務課長代理

企画総務課の金田と申します。よろしくお願いいたします。それでは、令和6年度の生野区の取組についてご説明いたします。着座にて失礼いたします。

前方のスクリーンもしくはお手元の参考資料 1 をご覧ください。

まず、生野区運営方針とは何かということについて簡単にご説明いたします。

生野区運営方針とは、区における施策の選択と集中の全体像を示す方針として毎年度策定するものであり、生野区将来ビジョンに向けた毎年度のアクションプランです。生野区のめざす将来像や施策展開の方向性などを示したものが区の将来ビジョンであり、それに向け毎年度のアクションプランとして策定するのが、生野区運営方針となります。

それではこどもの未来部会の分野についてご説明いたします。詳しい取組内容については、事前に送付いた資料 1 に記載させていただいておりますので、今回は取組結果を中心にご紹介いたします。まず、経営課題 3「子育てにやさしく、教育につよいまち」です。「ひとりも取りこぼさない」仕組みにより、子育てしたい、教育を受けさせたいと思えるまちを 10～20 年を念頭に、めざすべき将来像として設定しています。めざす成果及び戦略 3-1 を「安心してこどもを産み育てることができる環境づくり」としまして、概ね 3～5 年を念頭に、こどもたちが健やかに育つための環境や相談支援があり、安心して子育てできるまちとなっている状態をめざしました。具体的な取組としては、妊娠から出産など各ライフステージに応じた子育て支援の充実や、安心して楽しく子育てできる環境をつくるための仕掛けづくりや、積極的な情報発信に取り組みました。そして、これまでの取組におけるめざす状態を数値化したアウトカム指標として、「イベントが子育てしやすいまちづくりに役立っていると感じる」と回答した割合を令和 8 年度までに 80%以上と設定しましたが、令和 6 年時点で 100%となっております。

次にめざす成長及び戦略 3-2「未来を生き抜く力の育成」です。めざす状態をこどもたちが広い視野を持って、社会や人生が変化しても課題解決していく力を身に付けている状態として取組を進めました。具体的な取組として、次世代の学校づくりとし、学び支援事業や「いくの塾」の活用、また、まちの教育力を上げるとして、学習機会の提供や拡充、発表、交流の場の提供などの取組を実施しました。アウトカム指標としては、アンケートで「難しいことでも失敗を恐れないうで挑戦したいと思う」割合を、令和 8 年度末までに 90%以上としておりますが、令和 6 年度時点で達成となっております。次に生涯学習ルーム参加者アンケートで、生涯学習事業の内容を地域行事等で活かすことができたと回答した割合について令和 8 年度までに 70%以上と設定しており、令和 6 年度末時点では 63.6%となっています。

以上が令和 6 年度の生野区運営方針の振り返りになります。

続きまして事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応についてご説明させていただきます。スライドはありませんので参考資料 2 をご覧ください。

まず長谷川委員から、交通事故の対策、生野警察署の跡地に関する質問をいただきました。一つ目の交通事故対策についてです。自転車マナー啓発運動を行っているが、信号無視等の違反が広く、重大多発交差点として上六、谷九、阿倍野近鉄前交差点などが挙げられているが、生野の交差点でも事故多発地域等抑止力に繋がる方面はないかとのことご意見です。これに対する区の考え方、対応ですが、大阪府警本部の抑止対策といたしまして、大池橋交差点から田島4丁目交差点、桃谷中学校前から大池橋交差点を「自転車指導啓発重点地区及び路線」として選定し、街頭啓発活動や交通指導取締りを強化しております。警察と連携した街頭啓発の実施や区ホームページなどでマナーを呼びかけ、携帯電話使用等や酒気帯運転等における自転車の交通安全や交通ルールについても周知に努めております。

二つ目の生野警察署の跡地についてですが、生野警察署の跡地はどのようなかとのことご質問です。それに対する区の考え方、対応ですが、生野警察署の土地に関しては担当している本市契約管財局が所管しており、生野警察署移転後の跡地についても、本市契約管財局により売却に向けた手続きを行います。区としても、有効活動できるように契約管財局と連携して検討を行ってまいります。

裏面に移りまして、こどもの未来部会の足立委員から、「生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想」についてと、「子育てにやさしく、教育のつよいまち」についてご質問いただいております。

まず一つ目、学校再編整備における跡地活用の実例について説明して欲しいとのことご質問です。区の考え方、対応ですが、「いくのコーライズパーク」を皮切りに、ワン・ワールド・インターナショナルスクール大阪、アブロードインターナショナルスクール大阪校、大阪自動車整備専門学校でそれぞれ跡地活用が始まっております。いずれの事業者においても、学校跡地が防災・地域コミュニティの拠点として、引き続き地域活動や災害時の避難所としての利用を確保しつつ、事業者独自の学校跡地を核としたまちづくりに寄与する活用としては、グラウンド等を活用した食に関するイベント、地域の子どもたちや住民が参加できるスポーツ・文化教室、英語を学べるサタデー・サマースクール等を実施しているところです。

二つ目は、「子育てにやさしく、教育のつよいまち」について、資料「学校教育環境」の数値の割合が高い要因について、学校内外での多様な学びの機会の充実を図るとは、また、特色ある学校の取組への支援とはどのようなことか。また、生野区がめざす「子ども像」、子どもたちの身につけたい「生きる力」とはどのようなものかとのことご質問をいただいております。ご質問に対する区の考え方、対応ですが、数値の割合が高い要因は明らかではありませんが、生野区としては、様々な家庭環境で育つ子どもたちがいることを踏まえて、自ら学習する機会を

提供しており、また子どもたちが自己を見つめ、将来との繋がりを見通しながら生き方を選択していけるよう、「性・生教育」「キャリア教育」などの充実に取り組んでいます。区が行う各学校の特色ある教育の支援としては、「生きるチカラまなびサポート事業」や「学び支援事業」などを行っています。生野区としては、自ら課題を発見し、解決していくことができるよう、育んでいきたいと考えています。また、各学校では、地域と連携・協働しながら学校教育を進めています。社会科の授業等において、身近な地域の様子について学習しており、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚は養われていくものと考えています。

事前にいただいた質問に対する回答は以上になります。

それでは最後に資料を戻らせていただきます。参考資料1をご覧ください。

令和6年度からテーマを設定して意見交換会を行っております。引き続き今年度もテーマを設定し、皆さまのご意見をお伺いしたいのでお願いいたします。本日のテーマは近年、こどもと大人の交流が少なくなってきております。地域を活性化するにはもっと多世代との交流が必要であると考えており、そのためにもこどもが地域の大人に学ぶ必要があると考えています。今後更なる多世代交流を進めるために、どのような工夫が有効なのか、皆さんのご意見を伺いたと思います。実現の可否を問わずに自由にご意見いただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局説明は以上であります。

○今井委員

区役所から説明がありましたが、この多世代交流の意見交換を始める前に、事務局からの説明について、ご質問などありましたら、少し時間を取りたいと思っております。発言をいただく際には挙手の上、お名前を述べていただきますようご協力お願いいたします。

足立委員お願いいたします。

○足立委員

足立です。よろしくお願いいたします。私が出した質問に対してのご回答の件で、さらに意見を述べたいと思います。

まず一つ目、跡地の活用にあたってですが、既にいろいろなところで活用されているのは知っていますが、そもそも、跡地の運用をして、そこにどのようなところが入ってくるか、どのように地域として活用するか、というところについては、事前に住民参加で主体的な話し合いは行われなかったと私の中で思っています。ただ、地域としてどのように跡地の中で活動していきたいかというような旨のヒアリング等はあるとあって、例えば夏祭りに使いたいとか、生涯学習に使いたいとか、その程度のことは意見交換というか区役所に聞いていただいて、事業者に

伝えてもらったということなのですが、蓋を開けてみたら全くその辺りのニュアンスも地域が思っていたものではなくなくて、私に関わった分でも、実際スムーズに行くまでにかなりの時間とすり合わせがあって大変困難な思いをいたしましたし、今もそれが尾を引いているところです。それで言うと、私はずっと最初から「みんなの学校構想」というか住民参加の跡地利用についてずっと参加してきましたが、住民参加の跡地利用というようにはなっていないのではないかと。つまり事業者が決めた中で、事前のヒアリングの中で、これは地域に使ってもらうようにしてくださいという感じの場所と時間をとって、それ以外については事業者が主体的に決めるというようになっていると思います。それならば、最初から運営事業者が主導権を持って、地域は間借りをするというか、「こういうことでしか使えないんです」って事前に言ってもらった方が私は良かったのではないかと。最初は、学校はなくなるけど地域の様々な活動の拠点になると区役所の方から説明があったので、事業者とともに地域活性化に向けてまた新たな何かができるのかと思ったけれど、多分、それは実際どこもできていないのではないかと。つまり夏祭りのときに場所を提供する、生涯学習ルームに貸す。交流という形でのイベントは、確かに資料に書いてあるようにされてると思いますが、そもそも最初に区役所から地域に提示された「ともにまちづくりで活性化していく」という部分については、どこも今のところできていないのではないかと。ただ、だからといって、これからはできないとは思っていないので、今後、事業者と地域がより活発な議論をしていくことは望んでいますし、まだ跡地の活用が決まってないところについては、その点も十分に踏まえて事業者なりと地域がいかに関わっていくかというのは、行政側がイニシアティブを取って、双方の意見をしっかり伝えてもらいたいなと思っています。というのも、施設面も防災施設と言いながらトイレが全然防災利用にはなっていないくて、結局そのトイレを修理するのも改築するのも事業者になる。そもそもの防災施設としての要件を、地域からの要望を、果たせないことになっているので、そのあたりも私は非常に不満ではあり、できてないなと思っています。

2点目を続けます。

○今井委員

2点目、もうちょっと短めでお願いします。

○足立委員

2点目については、「要因は明らかではありません」ということですが、明らかにしてほしいと思っています。それと下の方の、「広い視野を持って」とか「地域との連携」というと、学校選択制とか統廃合により地域が広がったり分断されている中で、かなりハードルが高いと思うので、この点についても相当な工夫と努力は必要ではないかと思っていますので、そのあたりも今後の検討課題にし

て欲しいと思います。

○今井委員

足立委員ありがとうございます。これはご意見という形でよろしいですかね。

他にいかがでしょうか。では永裕委員お願いします。短めでお願いいたします。

○永裕委員

短めにということですが、長くなったら申し訳ないなと思いつつ。

足立委員のご質問に関連することですが、今日、ぜひお話ししたいと思ったことがあります。「明らかにしていただきたい」と先ほど足立委員がおっしゃいましたが、私もぜひお願いしたいことがあって、学校統合をした結果はどうだったということをきちんと調査していただきたいと思っています。というのも、私自身が学校統合前と統合後の両方を経験してる現役保護者なんですけど、保護者の目から見て、小さな学校だった頃と大きな学校になった今では明らかに学校の環境が違います。先生たちがあまりにもしんどそう。人が多くなったことで連携が取れてない。私は障がい児者家族支援の NPO の代表もしているので、いろいろな学校の話が入ってきますが、どこも大きくなったことによる負荷で、子どもに影響が出ているんです。支援がきちんと連携できていなくて、回っていない。そうすると子どものために親は必死に学校に行くけど、先生が対応する余裕がなくて、負のループになっています。こういうことが現実として起こってしまう。ただ学校の適正配置としてこれが必要というのはわかるので、その結果どこに負荷がかかるのか、どこに手を入れなくてはいけないのかをきちんと考えるために、まずは調査をしていただきたいです。ちょうど生野未来学園や田島南小中一貫校は統合してから丸3年経って、4年目ですね。ちょうどいい時期なので、ぜひこれを今年度中に区に調べていただきたいというのが一つ。ぜひ皆さんも実際統合した中で、地域の中にいてどう思っているかを聞きたいなと思っています。

もう一つですね、統合において支援が漏れてるなと感じているのが PTA のことです。PTA は違う学校同士が集まって一つになるわけですが、元々学校統合をいろんな地域が反対してもめた中で、統合してるのが現実ですよ。その中で PTA がくっついて一つの学校で一緒にやりましょうと言っても、そもそも今の時代、保護者はみんな PTA やりたくないというのがリアルな話ですよ。参加する人を確保するのは難しいですよ。そういった中で、今までやってたことを続けるのと、新しく作ってもう1回やりましょうっていうのは負荷が全然違うわけです。親をやりながら、仕事をやりながら、PTA で新しい組織を立ち上げるというのは、ものすごいハイレベルな人間にしかできないことで、これを「自主的な民間組織ですよ。PTA は保護者の組織ですよ。はい、どうぞやってください。」って丸投げしていくのはちょっと保護者に対する負荷が高すぎると思う

んです。しかも、うちの子が通ってる学校に関しては、統合の際に、「PTA はもうなくしませんか」という保護者からの声があったにも関わらず、学校の方が「必要」ということで PTA を残したと伺っています。だったら、PTA がきちんと運営できているのか、その立ち上げの伴走サポートを責任持ってやっていただきたいと思います。実際、会員として見ていると、明らかに回ってない。適正処理がされていないところがたくさん目につきます。でも組織運営のプロではない保護者だからしょうがないんですよ。そういうときにプロの意見をきちんと入れるシステムをぜひ使っていただきたい。大阪市には「大阪市地域公共人材バンク」という大変素晴らしいシステムがあって、簡単に言うとプロが派遣されて来るんです。学校統合の問題って、生野区の半分の家庭とお子さんに影響のあることじゃないですか。もちろん地域も巻き込まれる。割と意思が関係なくされてしまうことなので、「はいできました。良かったね。」じゃなくて、実際どうなのか、良かったこと悪かったことをぜひ調べていただきたい。そして、悪かったことにはきちんと手を打っていく。そして伴走支援でプロをきちんと入れていただきたい。

特に北鶴橋小学校と鶴橋小学校はこれから合併しますね。新しく立ち上がる場所なので、ぜひこれを利用していただきたい。区がやるのではなく、制度がきちんとあるので、ぜひ区としてもサポートとして入れていただきたいと思います。

すいません長くなりました。でもぜひ学校統合したリアルをぜひ皆さんに聞いてみたいなと思っております。

○今井委員

ありがとうございます。永裕委員、これは一応意見という形ですかね。それとも質問ですか。

○永裕委員

区にではなく、今日来ている皆さんにぜひ聞きたいです。

○今井委員

わかりました。今、永裕委員からは学校跡地活用問題もそうですし、その後の学校が統廃合されて子どもたちの状況あるいは保護者の状況そして学校の先生、そういったところで調査が必要なんじゃないかという提言、ご意見でした。あとはそこで漏れているものが PTA というところで、支援が必要なんじゃないかのご意見ありました。そのあたりも含めて、ご意見や思われてることとかありましたら、ぜひ一言ずつでも結構ですし、挙手をお願いいたします。では西村さんお願いします。

○西村委員

一つは足立委員がおっしゃった跡地問題で、まさに今、舍利寺は跡地問題を検

討させていただいて、区役所と地域住民との話し合いが2回終わって、今月3回目があります。足立委員がおっしゃったように、跡地は、地域・まちづくりの拠点として、防災拠点と共に残していただくということで、この辺をやっぱり検証をしていただきたい。永裕委員のところとか、実際にもうされているところがいくつかあるわけなので、その辺を目に見える形で示していただきたいというのが、まさにその渦中にいる我々にとって求めたいものかなと思います。

それから永裕委員がおっしゃった、新しい学校でのPTA問題。先日、生野未来学園の1年生から5年生までの運動会があり、今年の1年生は100人、去年の1年生は110何人いたかな。半日で終わってしまうんですが、本当に昔の運動会を思い起こさせるような長い運動会を見させていただきました。4つの地域で一つのPTAというね、地域的にあまりに広く、子どもたちにとっては通うのも大変なのですが、舍利寺では毎年夏の間、夜間パトロールを半年していて、ちょうど二、三日前もそれがありません。いつも「PTA・連合等で回っています」というアナウンスをするんですが、もう今はそれができない。この間参加されてる現役のPTAの人はもうほぼゼロでしたかね。本当に地域にとっても、これからそういうことを担ってもらう人たちをどこから探してきたらいいのかという問題もあったりします。永裕委員がおっしゃったように、PTA自体にアドバイスしてくれる人・制度があれば、それを活用して助けてあげてほしいなと思います。私も舍利寺小学校でもPTA会長をしておりましたが、ずっとあった組織でもやっぱり大変でした。同じ生野区で隣り合った連合でもやっぱり地域によって色が違うというのか、特色がありますからね。そういうことも含めて支援していただくことは、これからの生野区の地域にとっても有効に働くんじゃないかなと思います。

○今井委員

西村委員ありがとうございました。他の委員の方々いかがでしょうか。

加藤委員お願いします。

○加藤委員

今の統合の件ですが、うちは西生野ですから盆踊りが、3年間できなかったんです。校庭が改築でね、これ2年できなかって1年やって、また校舎建てるんで改築やって、もう本当に地域活動ができない。

生野未来学園のPTAも、皆さん集まるのがなかなか大変なようでね。4校が集まって一つにやるというのは。やっところさ、3、4、5年ぐらいでぼちぼちPTAらしくなってきたかなという感じです。それで勝山校区が半分にわかれますから、そこから子どもたちが生野未来学園に入ってきたら、どうなるかなと思ってね。低学年はものすごく増えますからね。今でもだいぶ勝山校区の子どもさんが未来学園に入ってますからね。まずは校舎が足りないんじゃないかな。学校

の工事は地域的にはもう大変で、使い勝手がものすごく悪いんです。

先のことを考えて、いろいろとやってくれているんだろうと思うんですが、後から後から、そういうふうに悪いことは見えます。

○今井委員

加藤委員ありがとうございました。意見交換もあるんですけど、せっかくですのでもしご意見がありましたら、他の方いかがでしょうか。

では、上田会長お願いいたします。

○上田生野区 PTA 協議会会長

上田です。PTA のお話が出ましたが、統廃合をしてからの PTA っていうのは、どこの学校でも問題が結構ありまして、地域的な問題を特に聞きます。大人の話で、あんまり仲良くないとか、こっちはイベントやりたい派・やりたくない派とか。私は、以前は桃谷中学校の会長もさせていただいて、今は田島南小学校の PTA の会長もさせていただいて、どちらも統合した後の PTA でしたが、やっぱりそういう部分は否めなくて、現在もやはり尾を引きずっているところはあります。誰が言った・言わないとか、この町会の誰々だとか、そんなものがいっぱいあります。でも今年から、田島南小学校の方はもう PTA を解体しようという話になって、既存の委員会を全部なくしました。そして、今までやりたかった・今まであったイベント、例えばサマーフェスティバルとか救急救命の講習、保護者向けの講習など、やりたいものは一応入学式の時と PTA 総会を通して、こういうイベントがありますよということを言って、それを全保護者に案内をした上で、オープンチャットという LINE のグループに自主的に入っていただくことにしています。それで例えば一つの企画に対してこれだけの人数が必要というのがあって、でも必要人数に達しなかった場合は、このイベントはやめにしますということを言いながら、会長と本部役員で運営しているようなところですよ。今のところ、救急救命はおかげさまで一つできたというような感じです。僕が会長をしながら感じているのは、既存のものを今まで通りしないといけなということの一つもないので、やりたい人ができる範囲で自主的に子どもたちが喜んでくれるようなことを考えられたらいいのかなということです。それだけの費用と人数等で賄っていったらいいのかなということを思っていますので、こういう意見交換とかも PTA 同士で区 PTA としても役割を担っていったらいいなと思っているようなところでございます。

○今井委員

ありがとうございます。

おのずと意見交換のテーマに行っているんだろうなと思いながら聞いておりました。学校跡地の問題、住民主体、住民参加ができるようなそういった拠点づくりをしているとか。学校が統廃合なった後に、盆踊りができる場所がなかつ

たら世代交流もできませんもんね。PTA の話も、何か工夫みたいな話ですよ。どうしたら大人が子どもたちに対して一緒にやっていけるかといった話で、二つ目のテーマにも移行していますので、あまり分けずにこのままシームレスに行きたいなと思います。もしよかったら北口委員や村岡委員もいかがですか。今の話に繋がっていても結構です。では、北口委員お願いいたします。

○北口（英）委員

北口でございます。

うちの巽東の地域におきましては、合併という話ではなくて、それよりも生野支援学校が移転するという話があります。勝山高校があった場所の横にあるんですが、そのグラウンドに来年ぐらいから着工して3、4年後に建つという話です。それに関して私たちは誰も反対しないんですが、当然支援学校ですから、電車で来る子もいますが、大半がバスとかの送迎になります。その中で一番危惧されているのが、大型バスです。あのあたりを通ったことがある方は分かると思いますが、ちょうど大阪わかば高校の裏手に川が流れていて、そこに道があって普通車だと十分通れるんですが、その道を大型バスが通るという話が最初出たんです。朝のラッシュ時になると、ダンプカーとかが入ってきて、普通車でも減らさないといけないようなところを通すという話が出てたんです。これを放っておいたら間違いなく事故が起こるから、私たち住民で、「道を変更するか、川を埋めて道にするかどちらかにしてくれ。」という話をしたんですけども、川埋めるには、1メートル数億かなんかっていうとんでもない金額がかかるからできないということで、今のところバスは通らないという話になっています。ただ、いざ学校が建って運営するとなったら、もしかしたら通る可能性もあるんで、一番危惧されたのは、要は試験的にバスを通しましたというやつです。

本来ならば朝の一番混んでるとき通してくれたら行き来ができないのは分かるけれども、ドライブレコーダーで昼の一番空いているときに走るところのデータを持って来られると、これは何やねんという話になりますよね。確かに昼の空いているときに通るのであればいいけれど、さっきも言ったように、たまにダンプカーが通ったりするので、下手したら正面衝突する可能性も十分あって、そういう話をずっと危惧して言っています。住民説明会は今まで3回ほど開かれて、一応その道は通さないという話になっていますが、今後、もしかすると学校の経営者が変わると、「もう通してまえ」とか「こっちの方が時間早い」とか、「安く済む」という話になって、対応が変わる恐れもある。それを徹底してほしいというのが、私たち、まちの者の考えです。

○今井委員

ありがとうございました。

村岡委員いかがでしょうか？はい、よろしくお願いします。

○村岡委員

ちょっと PTA のことはわからないんですけども、朝に見守りで立っていて、小学生が朝に集合するところが御幸通り近くの公園にあって、ちょうどそこを 8 時に出発するんですが、その時間帯に御幸通りに車がすごく入ってくるんです。ゴミの収集であったり、食品の配達であったり、もういろいろな車がどんどん来るので、子どもたちには「端よりなさい」というけど、その端もお店が看板とかいろいろ出してるから本当に通れるところがないんですよ。絶対そのうちに何か事故が起きるんじゃないかなと思うんです。その時間帯だけ車が入れないようにするとか、何か方法がないのかなと思います。

○今井委員

ありがとうございました。道路の話は子どもの命の問題でもありますし、本当に大きな問題だなと思って聞いておりました。

一通り皆さんからご意見をいただいたので、とりあえず次のテーマに少しずつずれながらよろしいでしょうか。それに限らず結構なんですけど、子どもが地域の大人に学ぶことで多世代交流を進めるにはどのような工夫が有効かということです。大人も子どももいろいろな人たちが交流する場所やそういった機会も少ないという中で、おそらくそれぞれの地域で取り組まれていることもあると思うんです。ぜひ、先ほどの PTA の方のように、既存のやり方にこだわる必要はないってような形も含めて、何か地域でやられていることがあれば皆さんに共有してもらい、区としてもしっかりとオープンにしていくと広がっていくかなと思いますので、そういうものがありましたら教えていただけたらと思います。あるいはこういった取組がもっとあったらいいよねっていう夢でも構いません。いかがでしょうか。

永裕委員お願いします。

○永裕委員

アイディアというか、子ども食堂がこれだけブームになる前から、生野地域では子どもの居場所ということで食事提供ではないですけど、活動を長く、もう 10 年以上続けてきています。学校の形も変わった中で、今回のテーマはわかるんですけど、どのような工夫が有効かというとならず、子どものいる家庭に地域からのお知らせが届かないんです。リアルな話、1 地域 1 校のときはすごく楽でした。学校に持っていったら、そこでまいてくれて、その地域の子どもが来るということで、イベントもやりやすかったし、それこそ PTA と連携がしやすかったです。でもそれが 4 校になったら、動かれへん。どっちも動かれへん、地域も動かれへん。PTA ももちろん動かれへん、チラシもまきににくい。もちろん地域の子どもだけに限定する必要はないと思っているので、この地域のこのイベントは、他の地域の子どももどうぞと言ってますが、ぶっちゃけ負担が大きいんです。同じ

ことをしていても子どもが1地域対象だったのが4地域になったら4倍になってますからね。その分お金もかかります。

そうなったときに、どのような工夫が有効か、私が聞きたいぐらいのテンションなんです。リアルな話、そうなんです。4地域の子どもの来るけど、4地域全体からうちの地域にお金入るわけじゃないのでね。他の地域の皆さんもそうだと思いますけど。

またご話題を戻したようになってしまいました。申し訳ないですけどリアルに思っております。

○今井委員

ありがとうございます。また戻ってきたんですけど皆さんいかがでしょうか。永裕委員はいろいろされているので、その大変な中でもちょっと何かこんな工夫しているとかありませんか。また後でもお願いいたします。

○足立委員

足立です。私も永裕委員と同じ意見ですけど、生野地域がやっていた「くじ引き」、本当に普通のくじを引いて物をもらえるっていうものを前に紹介してもらって、御幸森は4月から週1回やってはります。うちの社協の会長でもある女性部長さんに言ったら、すぐに見に行って、「あれやったらできるかも」って言って御幸森公園で4・5月と真似して同じような形で「当てもん」をやっています。御幸森は本当に統合になってから子どもたちがなかなか地域と関わる機会がなくて、夏祭りとかはその時だけで、そういう月に1回でも子どもたちが来てくれる場っていうので、1回目やった時に来た子が2回目に友達を呼んできてくれて、なんかちょっといけそうな感じやねってなってるので、私は福祉コーディネーターもしてるんですけど、第3月曜日の4時からやっている「当てもん」の時間の前にお高齢者向けに昔の懐かしい映画とかの映画上映会をやっていて、その映画の後に「当てもん」を設定することで、映画に参加してくれた人がそのまま店番とかもしてもらえんじゃないかということで、今本当にやり始めたばかりですが、そういう小さなところからでも、できたらいいかなと思ってはいます。

○今井委員

足立委員ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

○永裕委員

今、足立委員がおっしゃったのは、まさに私がさっき言っていた「生野地域で長くやっているもの」なんですけど、スーパーボールとか10円、20円ぐらいの単価のおもちゃをカゴに分けて入れておいて、くじを引いて、引いたくじの色と同じ色のかごの中の3種類ぐらいのおもちゃから選んで持って帰れるっていうのを毎週やっているの、「子ども食堂のおもちゃ版」と最近は言っています。

これの何がいいかというと、単純接触効果が大きいこと。毎週やるので毎週来るんです。ボランティアスタッフは地域の女性部長さんなどをお願いして一緒にやっただいてるんですけど、子どもの成長をずっと見ていくんですよ。

「大きくなったなー！」みたいな、この間ようやく歩き始めたと思っていた子がもう小学生みたいな感じっていうのは地域の中での見守りとしてはとても大きいです。子どもが小さいうちは親と一緒に来ることも多いので、保護者にアプローチもすごくしやすい。この取組をしていると「物をばらまいているんか」とか言われて、ぶっちゃけばらまいているんですけど、でもそれがきっかけで、その後続くものはとても大きいので、やり方としてはこっちの負担がすごく少なく済みます。負担が高いのはお金だけです。物品購入費だけで4地域分は高いというリアルがあるだけなので、大きなイベントを“どーん”もいいんですけど、小さなものを連続していくというところがすごく大事だとは思ってます。普段の見守り隊の活動なんかもそうです。毎日見てくださっている中で、成長もあったりとか、ちょっと気になる子を見つけたりとか、それはやっぱり普段からずっと一緒にいて、他の日の様子を知っているからこそ、今日ちょっとしんどそうだなというのがわかるわけで、そういうところにヒントがあるんじゃないかなと思ったりします。

○今井委員

ありがとうございます。普段の見守りの単純な、日常的なことから世代交流ができて、見守りが続くということでした。

そういった感じであれば、皆さんもいかがでしょうか。何か多世代交流をやっていますというよりは、普段の日常的なところから接触が生まれたり、交流が出てくるっていうところで皆さんの考えていらっしゃることもとか、いかがでしょうか。普段見られてるものとかありませんか。

西村委員お願いします。

○西村委員

普段ではないんですが、舍利寺では献血を毎年7月の第1土曜日にしております。今年7月5日にあるので、また皆さんおいでください。

今回初めて、もちろん無料でスマートボールとか、ヨーヨーすくいとか綿菓子とかそういうものを一緒にセットでしようと思っています。それは学校の倉庫に地域のものをたくさん置いておりますし、また得意な方がいらっしゃるんで、そういうことをして親御さんにも来てもらって、少しでも献血を増やしたいというような取組をすることになっています。ちょうど今日、生野未来学園で周知してもらおうと思って、見守り隊で立っている時にちょうど校長が来られたので、家庭数の630枚のちらしをお渡しして配っていただくようお願いしました。舍利寺の献血ですが、林寺も生野も全体に呼びかけていただいてということで。こ

の献血に限らず、うちの地域では盆踊りの時とか、お地蔵さんの時とかに、今言ったような、スーパーボールすくいとか綿菓子とかをして子どもたちに楽しんでもらっています。地域の大人たちと触れ合うようなことは、年間数回で限られています。一つはそういうことをさせてもらっています。

子どもが大人から学んで、手伝い、交流ということですが、その逆もあっていいんじゃないかなと思って、大人が子どもから学ぶこともあるんじゃないかなと。例えばスマホとかパソコン・タブレットの使い方を子どもに先生になってもらって、大人が教えてもらう。今、舍利寺では毎月会館でスマホ教室をしていますが、そういうところで子どもたちに先生をやってもらう。あるいは、きっと今子どもたちが学校で教えてもらっていることは我々が学んだ時とは何か違う方法や角度で教えてもらってるようなこともあると思うので、そういうことを子どもに大人が教えてもらうというようなことで交流するというのもあるんじゃないかなと思ったりしました。

昨日、まちの掲示板に物を貼っている時に、あるお母さんが通りかかって、「ちようどお地蔵さんのところに行ったんですけど、お地蔵さんのお供えってどうしたらいいんですかね。」とお話しされました。うちの町会の方じゃないので、その町会長さん・女性部長さんに言ってもらったらっていうことでした。町会に入っていらっしゃる方なんですけど、それでもどこに言ったらいいかわからないということでした。また別のところで聞いたのは、マンションとかに住んでいるから町会に入る方法も分からないし、地域の行事が書いてあるけど、それに自分たちが参加してもいいのか、町会に入っていないからあかんのか、ということで躊躇しているというようなことも聞いたりします。町会に入ってようが入ってまいが、お地蔵さんなんか来てもらったらいいいんだよね。そういうこともいろいろな方法で周知とかして、まず交流できる機会はいっぱいあるということも周知していかないといけないなと。我々もするし、行政でもしていただけたらなと思います。

○今井委員

ありがとうございました。子どもに大人が学ぶこともあるんだっていう話と、あと子どももおそらく、聞きたくてもどこに聞きに行ったらいいかわからないっていう話もあるかと思います。他の方々いかがでしょうか。

私からも 1 個だけよろしいですか。今回、多世代交流ということで外国につながる、ルーツのある方、特に最近日本にやって来られた方々の親御さんが、自分たちの国のことなどを子どもに伝えていきたいと思っても、それを伝える場所が物理的にもないという。例えば私が聞いたのは、ベトナムでランタン祭りというのがあるらしいんですね。満月のときに提灯とかをたくさん持って歩いたりして、すごい綺麗らしいんですが、それは先祖供養みたいです。そういった自

分たちが小さいときに学んできたことを、子どもに教えたいけど、場所がなかったり、どういうふうにやったらいいか相談する先がないとか、何かそういうふうに気持ちはあっても、誰に相談していいかわからないみたいなことがあります。そういうものも本当にどこか突破口が繋がって、「一緒にやろう」って地域の人が言ってくださったり、「場所を貸すよ」とか、そういうのがあれば実現できるのかなと、今日ちょっと私もお伝えしたいなと思ってきました。すいません間に入りました。

もうちょっと時間がありますので、ぜひ皆さんいかがでしょうか？

加藤委員お願いします。

○加藤委員

うちの地域で中国の人が二胡やりたいと相談にきて、会館を使って、月3、4回集まってやっていますよ。

○今井委員

ちょっと聞いてもよろしいですか。どういう経緯で来られたんですか。加藤委員にやりたいっておっしゃられたんですか。

○加藤委員

引っ越して来られて、近所の人から僕が聞いて、そういうのをやりたいんだったら会館が空いてる時に使ったいいよと。

○今井委員

いい事例ですね。

○加藤委員

その人が日本語わからないから、翻訳を入れてね。

○今井委員

それは、生徒さんが学びに行く二胡教室なんですか。

○加藤委員

昼にやってるから僕はまだ見に行ったことはないんですけど、会館使ったらいいよって紹介しました。

○今井委員

なんかそういうのは、もっと広がっていけばいいなと思いますし、何か工夫があったんですか。

○加藤委員

工夫というよりも、ただ、そういうのをやってるいうので、どこかないかなという話で。

○今井委員

なんかこうね、「工夫は何ですか」って聞かれてもぱっと出てこないですね。普段からやられている地域との繋がりがあっていうところから出てきたのかなと思っ

て聞いておりました。ありがとうございます。

他の方がいでしょうか。足立委員お願いいたします。

○足立委員

工夫がしたくてもできない状況にどんどんなっているというのが現実だと思います。一つは学校選択制、それからもう一つは統廃合、これはどうしようもないですね。もう今現実になっていることをうだうだ言っても仕方がないんだけど、それで言うと生涯学習についても、さっき生涯学習ルーム参加者アンケートで、地域行事に活かすことができたといった回答云々がありましたけども、私自身もしてるんですけど、生涯学習というのは各校下の一つずつあったのが統合になって、本来一つって言われたんですよ。でも、四つの学校でやってた生涯学習ルームを一つにまとめるのなんか絶対無理やって言われて、でも私が確かにそれを聞いたときに、生涯学習というのは学校の一つという決まりがあるから、ゆくゆくはそうになっていくという形で、ただ一気に四つを一つにするというのは無理だから、舍利寺だったら舍利寺で今やっているものは続けてでもいいですが、新しいはやめてねっていうような決まりになっているようなんです。新しく地域で何かやろうと思っても生涯学習という枠組みではできないと規定されているなら、どこでやればいいのという話です。御幸森はもうないです、中川でやってくださいというふうになる。そうしたら高齢の人が今里筋を越えて行けるかって言うと、結局何かアイディアがあってもできない。それで地域の会館を生涯学習の会場として使えないか聞いたら、学校でやるのが生涯学習だから駄目って言われたんですよ。それはわかるけど、特区じゃないけど、生野区の実態に合わせて、会館は空いているから、生涯学習の第2の場所みたいにしてもらおうと、今言ったようなこともやれるし。生涯学習ってやっぱりお金の面でも結構補助があったりいろいろあるので、そういうことも含めて、何か工夫というよりは、工夫しようがないところに追い込まれてて、そこを何とか変えてもらえないか。何回も言いました。説明もしましたけど、決まりだからと言われて。担当の人も決まりだから困ると思います。でも、実際にもう統合した学校でしか生涯学習ルームの新しい企画は生まれません。なくなった学校ではもう新しいいろいろな活動は生涯学習という枠組みではできない。そうしたらもうみんなが自主的に自分でお金を出して地域でやるっていうようになって、全然行政の支援もサポートも得られないという実態が生野区で既に起こっていて、その上でどうやって工夫して多世代交流しろっていうのかと私は今思っているの、少し枠が広がってもらえるのであれば、そのあたりはぜひお願いしたいなと思っています。

○今井委員

ありがとうございます。

何か地域の広さが変わったり広がったりすると、自分たちがどこで学ぶとか、誰と繋がるかとか、子どもたちの安全面とか、こんなに変わってくるんだなと。もう一回地域を再構築していくために、柔軟に制度も変わっていったり、あるいは皆さんの知恵・工夫も出したりっていう、本当に結構な荒業だなと思いつながら聞いておりました。もう少しだけ時間がありますので、もし今話を聞いて、一言二言何かありましたら。

村岡委員お願いいたします。

○村岡委員

生涯学習の件なんですけど、各学校でやっていることが違うじゃないですか。自分のところの校区ではやっていないけれど、「これ習いたいわ」とか思っている人もいると思うんです。その時に、校区の人でないと駄目って言わないで、どこでも行けますよっていう感じにちょっと緩くしていただければ、もっと習う人も増えるんじゃないかなと思うんですけどね。

○今井委員

柔軟にどこでも行けるようにっていうのを、地域でやってるものとも相互にできたらいいですよ。なんか学校の生涯学習ルームと地域でやってることも繋がってネットワーク化していったら、何か新しい生野区ならではの生涯学習みたいなものが生まれるといいなと思いつながら聞いておりました。

永裕委員いかがでしょうか？

○永裕委員

長いですが私が喋っていいですか。蒸し返しますけどもマイクを持たせていただいたので。

振り返りのアンケートをぜひ区にとっていただきたいなと思っているわけです。地域で統合したことによって、こういうことが起こっていて子どもとの関わりがこういうふうに変まって、困っていることもあれば良かったこともある。そういうことをこういった場で発言できる権利がある私達はまだいいですよ。もちろん地域の中で拾い上げてここに座らせてもらっていますけど、全員にアクセスできるわけではないので、それをきちんと調査する時に来ているんじゃないかなというのは本当に思うので、ぜひアンケートを今年度取ってほしい。まずはそれこそ一番取りやすいのは学校、あと地域活動している方の両方だと思つるので、学校の保護者宛にまいてもらうことと、地域の地活協・連合を中心に取ってもらうことを、ぜひ区にお願いしたいなと思つておりましたが、皆さんが賛同してくれると嬉しいな。ありがとうございます。

学校経由でいろんな保護者にアンケートを取るっていうのは一番きちんと広い形で取れるだろうなと思うんです。プラス地域と両方マッチングしないと結果というのは出てこない。いい結果というか、どっちかだけでは駄目なんですよ。

やっぱり両輪から拾い上げた上で、どことどこを噛み合わせて、どう進めていくのかということが、多分区ができることではないかなと思うので、やっぱり調査はすごく大事だと思います。

○今井委員

永裕委員ありがとうございました。この部会でも、統廃合がどうであったかっというとは、ある程度調査なり振り返りをさせていただきたいという提案があったということで、今回よろしいですかね。

○足立委員

アンケートは統合したときに取っていますよね。

○永裕委員

1年じゃなくて、3年経った今も欲しい。

○足立委員

取っているんですよ、多分行政で。だからそれじゃないやつを取ってほしい。もう3、4年経って課題が出てきたところで、もう1回学校だけじゃなくて地域も取ってほしいということですね。

実は私達、民間の方では取り始めてるやつもあるんだけど、やっぱりしっかり取ってもらうのがいいので、行政が取ってもらうのが一番声が拾えるから、私もぜひお願いしたいと思います。

○今井委員

ありがとうございました。こういった意見があったということで、今回は受け止めていただけたらと思っております。

時間が来ましたのでよろしいでしょうか。

とは言え、生野区で皆さん本当にいろいろと地域の取組とか、日常的ないろいろな取組をされていると思いますので、そういったものがもっと有機的に行政の施策と繋がっていくといいなと思いながら今日もお話を聞いておりました。そうしましたら、これ以上ご意見等がないようですので意見交換を終了させていただきます。

永裕委員お返しします。

○永裕委員

今井委員ありがとうございました。

それでは、続きまして議題2「区政に関する意見交換会の開催について」ということで事務局から説明をお願いいたします。

○金田企画総務課長代理

事務局から説明させていただきます。参考資料1の最終ページ、もしくは前方のスクリーンをご覧ください。

昨年度も実施させていただきました意見交換会ですが、今年度は、これからの

未来を担う若い世代に災害に対する意識を高めていただくため、自由であり、柔軟な発想や意見を聴収し、今後の行政としての施策・事業展開を検討することが重要と考えており、意見交換会を開催したいと考えております。対象者は現在のジュニア災害リーダーとしました。開催時期は学生であることを鑑み、夏休みに実施したいと考えております。

事務局から説明は以上になります。

○永杢委員

ありがとうございました。

ぜひ若い世代の方々の自由かつ柔軟な発想や意見を聞いていただいて施策・事業に活かしていただければと思います。

それでは最後に、議事 3 その他ということで、事務局から連絡事項がありましたらお願いいたします。

○森区政推進担当課長

皆さまお疲れ様です。それでは議事 3 について事務局の方から報告とお知らせをさせていただきます。

まず一点目の報告ですが、お手元の資料に「区民わがこと SDGs」のゴール選定についてご説明させていただきます。

○金田企画総務課長代理

資料 2 をご覧ください。大阪・関西万博の開幕を迎える今年度一つの節目といたしまして、各区における「区民わがこと SDGs」の推進についても 2030 年を見据えまして、更なるブラッシュアップを図るべく、区ごとの特性・実情と親和性の高い SDGs ゴールに焦点を当てた普及啓発に取り組むこととされております。

つきましては、生野区としての SDGs ゴールの選定を行う必要があることから、SDGs17 項目の中から、生野区の基本理念としての異和共生の考えにのっとり 10 番の「人や国の不平等をなくそう」を選定することとします。

SDGs ゴールの選定に係る説明は以上になります。

○森区政推進担当課長

次に 2 点目のご報告ですが、お手元の資料 3 外国人住民との共生社会実現に向けた調査・施策検討結果の概要報告をさせていただきます。

○宮城企画総務課長

企画総務課長の宮城です。よろしくお願ひいたします。私の方から、昨年度実施した令和 6 年度生野区における外国人住民との共生社会実現に向けた調査・施策検討事業について概要を報告します。着座にて失礼します。

資料 3 をご覧ください。「1 調査目的」としては、生野区では従前から多文化共生のまちの実現をめざし、多様化・複雑化する外国人住民の課題・支援ニーズを把握し、ともに参画できる地域作りづくり実現のための支援策や協働による

地域コミュニティの創出に向けた政策提言を受け、必要な施策を実現するということを目的に事業者に委託して調査を実施しました。

「2 調査方法」について、量的調査と質的調査を実施しました。令和6年9月末現在で生野区には12万6,629人の住民がおり、うち外国人住民が2万9,202人で、そのうちの18歳以上の方7,000人を対象に実施しました。

質的調査については座談会方式やインタビューを通じて、より深く意見等を把握したものです。応募があった外国人住民から抽出した19名と、地域、企業、医療・福祉、保育・教育など各分野から選定した21名を対象に実施したものです。

「3 調査結果に基づく施策提言」ですが、調査の分析結果から施策提言がなされております。分析では「全体」「特別永住者」「特別永住者以外」における課題の特徴を把握して提言につなげており、9分野33の施策の柱に取りまとめがなされております。

次ページには、アンケートで使用した質問項目を資料としてつけております。その次の3枚目以降に、AからIの9つの分野で、調査で明らかとなった課題や施策提言の柱について記載しています。参考までに何項目かご紹介いたします。

まず「A あなたのことについて」という項目ですが、どのような名前を使用して生活をしているかということについて聞いております。

特別永住者とそれ以外で結果の違いが見て取れます。調査の結果から施策の柱として、多文化共生のまちづくりや外国人住民の課題に関する人権研修の拡充を挙げております。

次の「B ことば」でも特別永住者とそれ以外では日本語の使用に关しまして顕著な差が見てとれております。施策の柱として日本語教室の開設や、母語教室の開設などが挙げられております。

少し飛びまして「E 生活の困りごと・情報」の項目ですが、特別永住者では高齢化が、それ以外では居住の不安定性が課題として挙げられております。ここでも柱として日本語教室の開設や多言語相談窓口の設置などが挙げられております。

次に「G 差別」の項目では、外国ルーツであることを理由に差別を受けたことがあるかという問いですが、こちらの方では特別永住者とそれ以外で顕著な差はなく、約半数の方が差別をされたことがあるという回答をしておりまして、人権教育や啓発の充実などが施策の柱として挙げられております。

最後に「I 多文化共生のまちづくり」ですが、特別永住者以外の方のほうが、地域の中の日本人と交流したい意向が多いという状況が見てとれ、外国人住民が参加・参画する仕組みの構築などが柱として挙げられております。

以上、調査結果の概要を簡単にご報告いたしました。事業者から提出された

調査結果・施策の提言の内容について今後精査・検討を進めていく予定です。その上で課題解消に向けて区役所が主体的に取り組むこと、また地域の方々と共同で取り組むことなど、施策の展開を進めていきたいと考えております。

私からは以上です。

○森区政推進担当課長

以上2点報告とさせていただきます。なお本日いただきましたご意見などにつきましては、6月23日に開催する全体会で部会報告をいただき、他の部会の皆さまにも共有いただきたいと思いますと考えております。部会報告の内容は事務局にてひとまず整理をいたしまして、本日進行を務めていただきました今井委員と調整させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

最後にお知らせになります。本日参考資料4として配布をしている「委員会委員改選について」をご覧ください。

本市の区政会議の委員の任期は条例によりまして、1期2年、最大2期4年と定められておりまして、委員の皆さまの任期が一旦本年9月末となっております。つきましては、10月以降の委員の選定について地域からのご推薦依頼の手続きを進めているところです。本部会におきましても、このメンバー構成としては本日で最終となっております。

次に資料の裏面をご覧ください。名簿にありますように、本部会では川本委員、加藤委員、永裕部会長、北口委員の4名の方が2期4年で、今期にて任期満了となります。つきましては、本日ご参加いただいている委員の皆さまに名簿の順に一言ずついただければと思っております。まず加藤委員、よろしくお願いいたします。

○加藤委員

委員になって会議に出て、いろいろと他の地域の人の行事とかがよくわかるようになりました。子どもの安全を守るいうのでは、まだまだ道は狭いですね。もっと子どもが通学できる安全な道、ガードレールなどを整備してほしいと思います。

○森区政推進担当課長

ありがとうございました。

続きまして永裕部会長、よろしくお願いいたします。

○永裕委員

今までどうもありがとうございました。今日は特に学校統合について、その後どうなのっていうお話を中心に私からさせてもらいましたが、問題っていうのはこの後もまだまだ続いていくことだと思うので、今後の残られる委員の皆さまにぜひ引き続き、学校統合がポジティブなものになるように、問題はもちろん変化によって起こるので、そこをどうマッチフォローしていくか、地域と保護

者と学校とが力を合わせてできたらいいなと思うので、そういう視点で皆さまにぜひ次を託したいと思います。よろしくお願いします。

○森区政推進担当課長

ありがとうございます。

最後に北口委員よろしくお願いいたします。

○北口（英）委員

2期4年、最初は2期もしないといけないのかと思いながら、もうすぐ終わりを迎えることになりまして、思ったより早く過ぎたんですが、かといってそれに見合うぐらいの仕事がしたかと言われると、ほとんどしていないだろうなと思っています。残られる皆さまにも、今後いろいろな諸問題が出てくると思いますが、せめてこの生野区がより良いまちになるために、私はもうここには来ることはないと思いますが、何かと違う角度からご協力させていただきますので、またこれからもよろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

任期満了の委員の皆さま、今後の生野区のためにたくさんのご意見を頂戴しまして誠にありがとうございました。

事務局からの報告は以上となります。冒頭でもお願いしましたように、本日アンケートをお配りしておりますので、お帰りの際に出口の方で回収をさせていただきます。よろしくご協力をお願いいたします。

それでは進行を部会長にお返しをいたします。

○永裕委員

ありがとうございます。それでは本日の会議を踏まえまして、筋原区長より一言お願いいたします。

○筋原生野区長

生野区長の筋原です。

今日は防火管理の団体の表彰式・総会があり、来るのが遅れましてお詫び申し上げます。

本日も長時間にわたり貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。また、加藤委員、永裕委員、北口委員におかれましては本当に長期間区政会議のためにご尽力をいただきまして心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

本当に貴重なご意見をいただいて。子どもたちのくじのお話は、本当にそういう小さいことを連続していくことの大切さと、子どもたちにとっても非常に心に残る思い出になるんじゃないかなと思いました。そういう小さい幸せがある日常というのが、まちに非常に大事だなと改めて感じた次第です。たくさんのご意見を賜りまして、これをもとに整備に向けて検討・実施に務めていきます。

いと思いますので、どうぞ引き続きよろしくお願い申し上げます。長時間にわた
りまして誠にありがとうございました。

○永杢委員

筋原区長ありがとうございました。こちらのメンバーでの会議は本日で最後
でございます。でも皆さま同じ生野の人間ですので、またこの会議以外でもぜひ
良いお付き合いをさせていただけたらと思います。

区政会議は生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をし、意見を語
り合える場です。令和7年6月23日には全体会の開催が予定されておりますの
で、よろしくお願いします。それではこれにてこどもの未来部会を終了いたしま
す。皆さまお疲れ様でした。